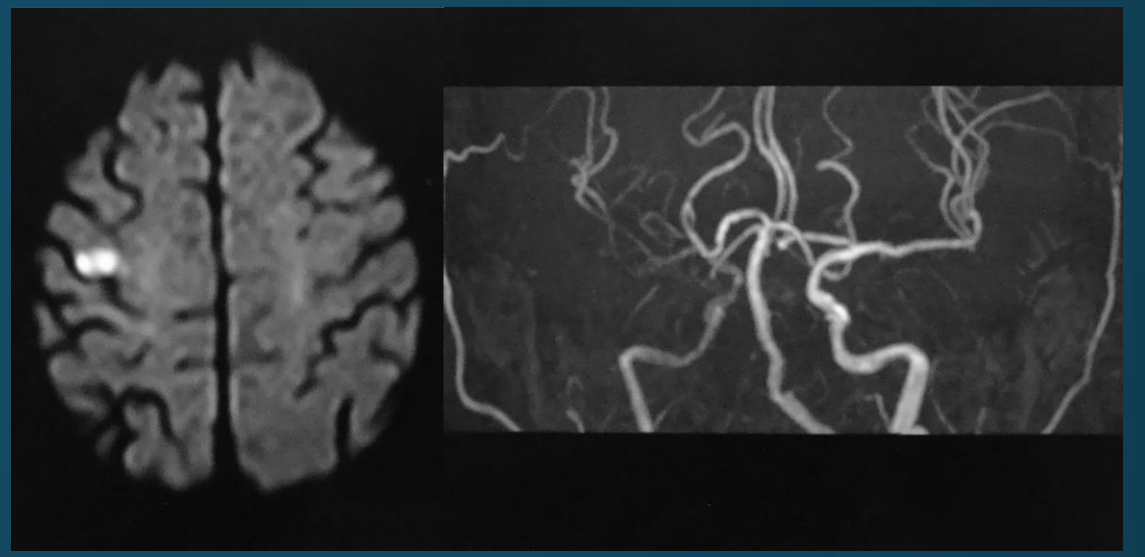


横浜旭中央総合病院 施設、設備について

当院では、大学病院と遜色のない設備で診療、治療を行っております。

各分野での専門医、指導医が安全、確実な診療を行う基盤となる設備の一部を御紹介します。





• MRI (GE)

磁場と電波を用いて検査をします。放射線の被ばくがないことが特徴です。

拡散強調画像、FLAIR画像といった急性期脳梗塞、頭蓋内出血、脳腫瘍の診断に不可欠な検査機器です。

造影剤を使用しなくても血管の検査を行うことができます。

24時間稼働し、迅速な脳卒中救急を行っています。

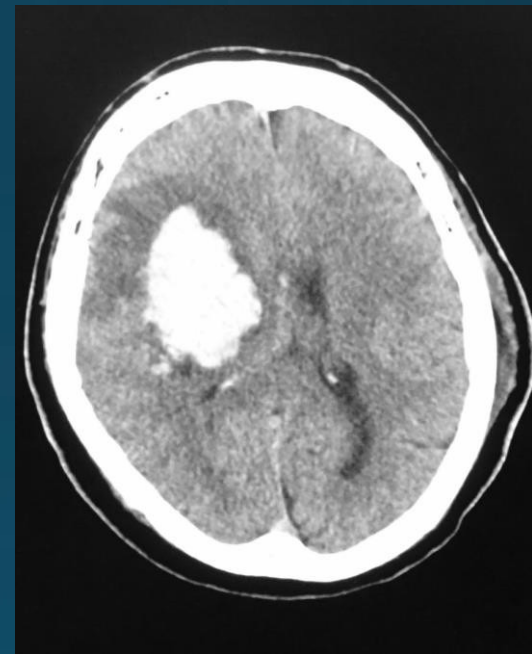
• CT(CANON)

2台のCTを所有し、迅速な診療を行っています。

放射線を使用して検査します。

被ばくをしますが短時間でできることが特徴です。

造影剤を使用し、脳血管の検査や脳血流検査をすることができます。



• 核医学検査 (SIEMENS)

特定の臓器や病変（悪性腫瘍、炎症など）に集積しやすい放射性医薬品を注射してガンマカメラで撮影をします。脳外科領域では、脳血流検査や悪性腫瘍の診断に使用します。

脳梗塞後の血行再建術（浅側頭動脈中大脳動脈吻合術）の適応を決めるためにガイドラインで必須の検査です。

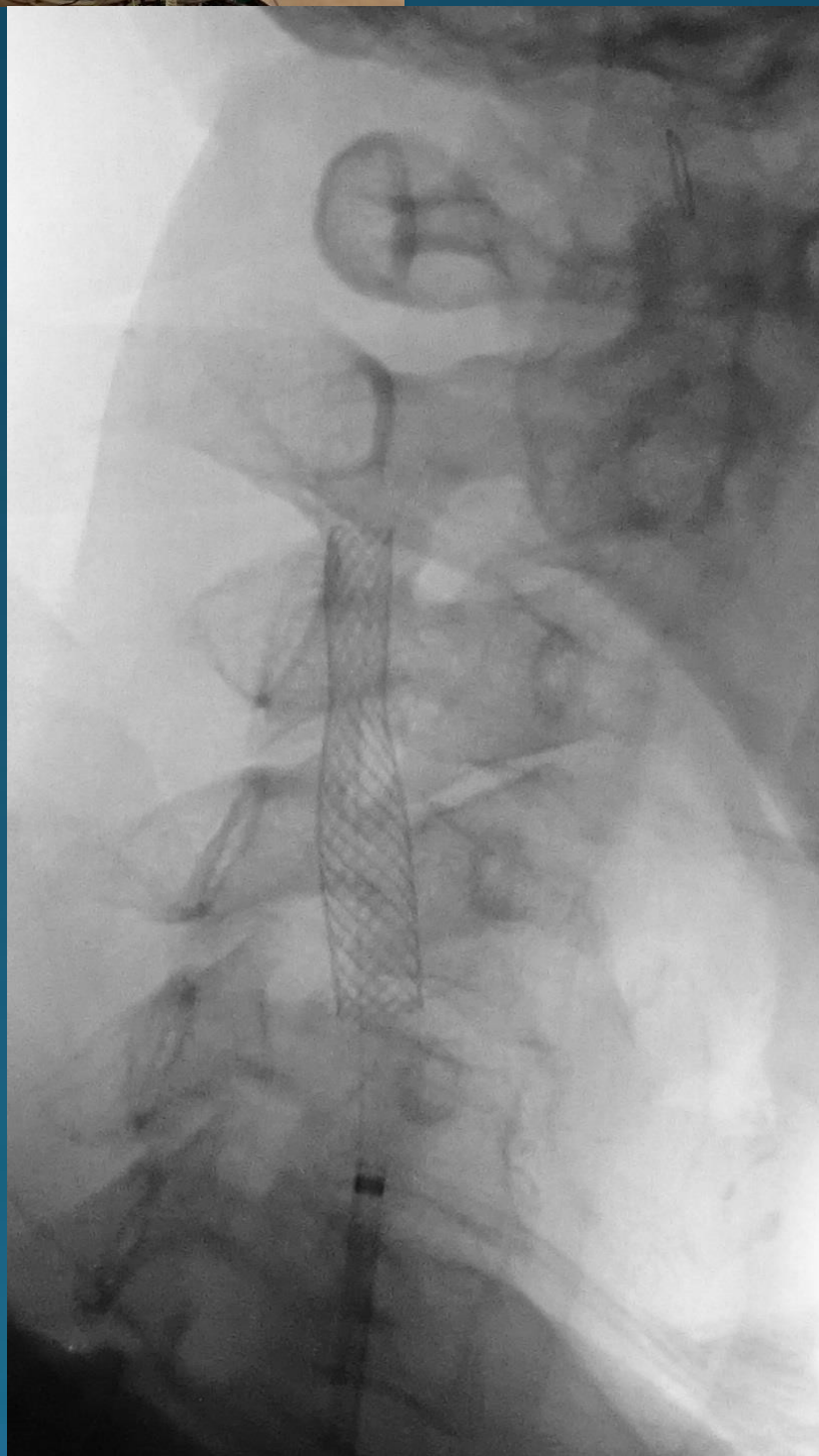


• 血管撮影装置（SIEMENS）

脳血管造影装置は、基本的な脳血管の検査とともに脳血管内手術に不可欠の機械です。当院では、同時に2方向から撮影可能な器械です。（造影剤の減量や血管内手術時の安全性に寄与します。）24時間体制で緊急の検査にも対応します。検査室には麻酔器も常備されており、円滑に血管内手術に移行することができます。

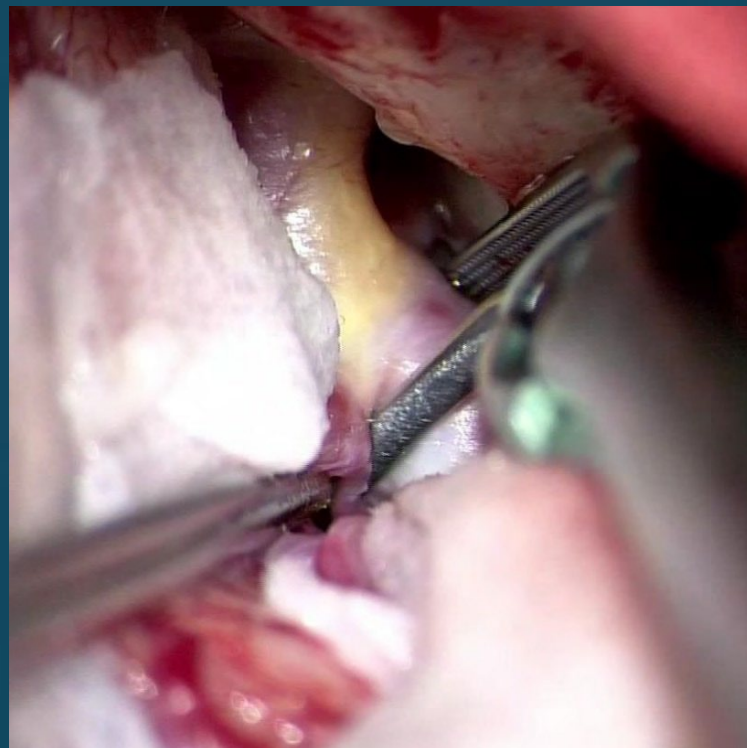


左；当院血管造影検査室
下；頸部内頸動脈狭窄症、頸動脈ステント術
左；術前
中；ステント
右；術後



- 手術顕微鏡（ ZEISS, OLYMPUS ）

脳神経外科手術は、非常に微細な手術で手術用顕微鏡を用いて行います。当院には、2台の高性能手術顕微鏡があります。



- 神経内視鏡（ KARL STORZ, OLYMPUS ）

近年、脳神経外科手術にも内視鏡が用いられるようになってきました。当院では、積極的に内視鏡手術を導入しています。



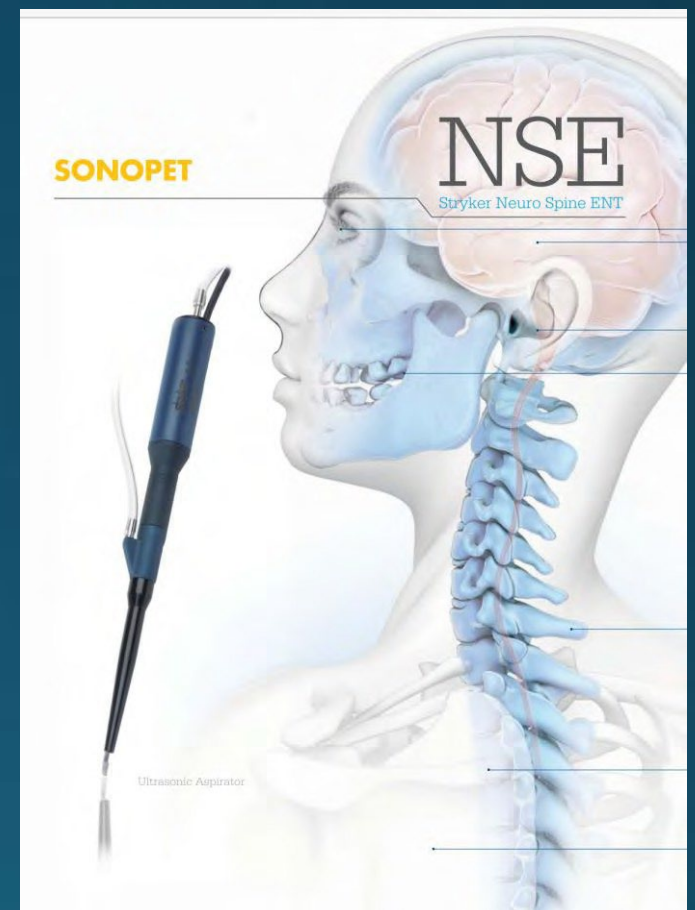
• ハイスピードドリル（ MEDTRONIC ）

開頭や頭蓋底手術に用います。このハイスピードドリルのみでも頭蓋底手術を行うことができますが、下記の超音波手術器と合わせ、安全な手術を心がけています。



• 超音波手術器（ STRYKER ; SONOPET ）

超音波にて組織を破砕し、吸引します。腫瘍の摘出や頭蓋底手術で骨削除に用います。



• 術中神経モニタリング装置（ 日本光電 ）

術中に様々な神経のモニタリングを行うことにより、手術の安全性を高める努力を行っています。

主に運動や感覚、聴覚、視覚、顔面神経のモニタリングを行っています。

• 術中ナビゲーションシステム（ MEDTRONIC ）

術前撮影した画像から立体画像を構成し、手術中の位置情報(病変の位置、病変と正常脳との境界など)を確認することができます。当院では、開頭術、内視鏡手術、脊椎手術に術中ナビゲーションを行っています。

術中に正確な位置情報を得ることは、手術の効率化のみでなく、安全性の向上に大きな役割を果たします。

（光学式、磁場式での使用が可能です。）



StealthStation® S7®

Medtronic
Further. Together



Cranial インターフェイス画面



Spine インターフェイス画面